

倉野憲司博士所藏本

源氏御談義

(千鳥抄) (下)

十七並七 み ゆ き 十一九

一コノヲトナシノ瀧コソ 拾 トニカクニ人メツ、ミヲセキカネテ
シタニナカル、音無ノ瀧 此哥ヲ引ヨセテ云也 一カヲチタケタ
チ。タケタチトハタケノホト也 一アシヨハ車 出消 只輪ノヨハキ
也 一ヤツカレ 臣也 某ト云心也 一イテキエ 廣座ニ出
テヲトルヲ云也 一ヲホミキ御へ 御へトハニエ也 贅ヲヘト
ヨム 一スミクワロ 炭火爐也 一鳥ツクル柴ノ事 柴の(マ)マ
タケ七尺五寸柏ヨリハセハクマロクシテ裏(※)面ニ毛生タリ是ヲ
鳥柴トツシハト云又ハタモム柴トモ云也年内ハ立枝ヲヘタテ、ラン鳥
ヲ上ニ鳥ノ左ヲ木ニアテ、付年明テハメントリヲ上ニ付柴ノ上四
尺下三尺五寸ニ付此外梅柳ナトニモ付 一小鳥ヲハ紅葉萩薄ナト
ニ付 一ス、メヲハ竹ニ付 一タハヤスキ 容易 タヤスキ也 一コラウ
ノスケ 古老ノスケ也 一コ、シカラス 大儀ナラス也 一マウチ
キンタチ 大夫ト書公卿ノ事也 一カウシ 考事ト書勘当也
一アマコロモ 尼衣 一コタイナル 昔様ナル也 一カラノタキ
物 唐合也 一ヲチクリノ色 赤ハカマノコキ也 一ト黒色也 紙食
一アハセノハカマ 中へ入ラヌハカマ也又衣魚ト書 蠹(シ) 紙食
フ虫也 一紫ノシラキニミユル 紫ノチト白色ニ見ユル也 一シ
、カミハチ、ミタル躰也 一ウハモ 女ハカマノ上ニ裳ヲキ

ル式也仍ウハモト云 一アウナケニ 奥ナケニ也 一マシリ
眈ト書 皆トモ書 一イソシク イソカシク也 一ツマコヘ 物
申ス声(※)ノカタハシ也 一イハホモアハ雪ニナシタマフヘキ
秘説有ト云々

十七並八 ふちはかま 十一十五

一内侍ノカミ 玉カツラ也 一ウチヒ給フ ノロノシキ躰也
万十一水ノ上ニ数書如ク我命イモニアハントウケヒツルカナ 日本紀
本紀 呪咀ト書テウケハントヨム 一宰相中將 夕霧ノ事也
一ソラセウソコ 御使ナルカ仰ラレヌ事ライフヲ云也 一ウツ
タへ ウチツケ同事也 ヤカテ也 一女ハ三ニシタカフ 三從
ト云イトケナクテハ父兄ニ從フ嫁テハ夫ニ從フ夫死テハ子ニ從
一マカ、シキ イマノシキ也 忌々 一イモセ 妹兄ト書 日本紀
日本紀 イサナキイサナミノミコト兄弟夫婦ニ成タル故ニ如此
妹兄ト云也 一御ヲホイキミ 御嫡女也 一カシケタルサ、ニ文
ヲ付テ兵部(※)卿ノ宮ノ方ヨリ玉葛ノカタヘヤレル文也 カレケリ 悴

十七並九 枝 柱 十一十五 日本紀三書

一カノセハヨキ道ナカンナル ヨキ道一説ヨキ道 一ヤサ
シカルヘキ ハツカシカルヘキ也 一シウネシ 強字也 日本紀

Ⅴ 一カウシ、給フ 勘当也 一メシウト 思ヒ人也 宮人 日

本紀 一ヲホケタリ ホケタル也 一ムカムヒ火 向焼ト書 日

本武尊駿河国ニテ賊王ヲ殺(※)サントテ野ニ火ヲ付テ焼時向火ヲ付テ免ル事ヲ得タリ 一ナコヤカ 綱綱 日本紀 一ヲホキナル

コノ下ナル火トリヲトリテ云々 六帖蕪ノコノ下煙フスフトモ我

ヒトリヲハシナスヘシヤハ 一ウツシ心 現心ト書 一サナカラ

マウツ 更啓ト書 日本紀 一ウ「ウ」ツシヤキ 實法ニケスシ

キ心也Ⅴ 一ヒワタ色ノ紙 紫ノコクチト黒キ色也 一文選別賦

ニ 高木ヲ古里ニカヘリミル云々Ⅴ 一フカウナル 不幸ナル

也 一コノサウノメイホク 今生ノ面目也Ⅴ 一シカヒキ、リ

ヒキ、リハ引ツヨキハリ心也 一アヲニヒノサシヌキ 地ハモヘキニテ

文ハ黄ナル物也青朽葉ノ指貫也大将檢非違使ノ別当キル物也 一

ナメク 無礼也 一平中ハ 平貞文也 一ウタカタ人ヲシノハサ

ラメヤ 未必 ツタカ 遊仙屈ニヨム ウタカタトハウタテ人ヲト云心也

後撰 思ヒ川タエスナカル、水ノアハノウタカタ人ニアハテキエメ

ヤ 是モ同心也Ⅴ 新古思ヒ川ウタカタ波ノ消カヘリ結契ハ末

タニモナシ 源親行 一カリノコ 鴨ノ子也

十八 梅 か 枝 十一 廿二

着(※) 一御モキノ事 アカシノ中宮也十二歳也Ⅴ 一アヤヒ綾井コンキ

高麗人ノタテマツリシ也キンラン様ノ物也Ⅴ 一ソムワウノフ

タツノホウ云々 ソンワウハアヤマレル歟承和ノ方也二方ハ侍従

鳥方二也御秘藏ノ間男ニ伝ヘカラスト承和仁明仰事アル也 一心

ニシメテ ソメテ也 一東ノ中ノハナチイテ云々、ハナチイテ

トハ出居也Ⅴ 一ヲト、ノ御ハ 御ハトハ御方ハ也 一タキモノ

合事四季 春ハ梅花夏ハ荷葉秋ハ菊花又侍従也Ⅴ冬ハ鳥

方落葉Ⅴ此外蕪衣香 承和百歩ノ方 躰心香 是ハ口ニ食物也

一ネクラノ鳥モホコロヒナマシ ホコロフルハ発ノ心也 タトヘハ

高ク声(※)ノ聞ユル也 一ヲホシキサス キサスハ萌字也 思

ソメタル也Ⅴ 一トヨリテハ 外ヘヨリテ也 末ニ成テ也 一女手

トハ カナノ事也 一サウシ一ヨロヒ也 一雙也 一アシテ 葦

手ト書 絵ノ中ニ文字ヲエニ作ナシテ書事也 一ケチエンナルヒ

ラ云々 ヒラ牧字也 一牧二牧ノ牧ノ事也牧之湖 萬葉Ⅴ 一コ

マンヨウ集 古万葉集 一御トノ油ミシカク 短クハ灯台ノヒキ

、也 一ナヲシキ 諸大夫直人ノ事也ケスシキ也 マミノワタ

リ眉間ト云伊勢物語真名本

十八 藤のうら葉 十一 廿二

一モロ恋 左右恋ト書 伊勢物語真名本ニ書之相思フ恋也 一

極楽寺 深草ニ在之照(マ)宣公御建立 仁明天皇御狩ニ芹河行

幸ノ時琴ノ作爪ヲ落サル、時昭宣公幼稚ニテ供奉有聊御意有テ昭

宣公ニ可尋進之由被仰出間昭宣公此作爪ヲ尋得タラハ大伽藍(マ

マヲ可建立之由致祈念則尋テ進上了觀(※)感ニ預了仍此極楽寺建

立云々 一アマ風 雨ケノ風也 一藤ニタソカレ時可付之 一文

籍ニモカレイト云事アリ云々 文籍ハ書籍也カレイハ家令ト書其

家ノ管領如ノ者也 一タヲヤメ 婦人ト書日本紀第一手弱女人又

日本紀幼婦 万 一菊多クナノセキ 関也弘仁式ニ書之能因哥枕ニ云菊多

ト書テクキタトヨム俗ニハキクタト云也 一アサカホ 朝ノカホ

也 六帖ネクタレノアサカホノ花ノ秋キリニヲモカクシツ、ミエ

ヌ君カナ 一灌仏 クワンブツ 卯月八日ニ仏ニウフユアヒセマイラスル事也

一ミアレ 御生ト書又御形トモ書賀茂大明神御誕(マ)日也申日也

一ハカセナラテハ云々 哥ニ桂ヲ折テトアルニ博士ニソヘタル也

一 コキムラサキ 中納言キル袍也 一 マシミツ 眞清水也又
マサル清水ト云歟 六帖我ヤトノイサラ小川ノマシミツノマシ
テソ思フ君ヒトリヲハ 一 イサラ小川 チサキ川也 一 イサラ井
小井ト書心同前 カシハテ 膳部ト書供御ノ料 理スル人也
一 ヲモノ 御ノ字ヲヲモノトヨム也 一 ツルハミ 椽ト書
トクルリト云木也 一 ウタノハウシ 和琴ノ名也ウタト云和
琴アリ 若菜異名上ハコ鳥下モロカツラ 当御流ニハ不被用之

廿 若菜 上 十一 廿七

一 ヲホンソウフン 処分也 一中納言君 夕霧也 一 御心ハ
ホコロフヘカラン云々 御心アラハルヘカラン也 一 アタケ
タナル氣也 一 カンノ君 ヲホロ月夜ノ内侍也 一 窈窕淑 女
君子 好述也毛詩淑 善述ハ迄タクヒノ心也 一 云々 日本紀
一 媒妁 中 一 ナクシテ夫ヲスルヲハ野合トテ女ノキスニスル事也
一 権中納言 夕霧也 一 御心タムセ給 思立セ給 一 イキマキ
イカリタル也 一 カヘトノ 栢 梁殿トテ后ノ御座アルヘ
キ所也朱雀院ノ内ニアル也 一 女ニモ 髪ヲアクルヲハ理髪ト
云也 一 ソンシヤノ大臣 御裳ノ腰結人也 一 センカウノカ
ケハン 香ニテ作ルカケハン也 一 ホウユカミ云々 四方ナル物
ノユカミタル也 一 源氏四十賀ヲ玉カツラノ沙汰アル也正月
廿三日子日也 十二種若菜 若菜 アサミ チシヤ セリ ワラ
ヒ ナツナ アフヒ ヨモキ 水蓼 水雲 芝 荭 小大根
医書 七種 ナツナ ハコヘ セリ アヲナ 御形 スシロ
仏ノ座 一 カヘシロ 防壁ト書カヘ一間ニワタリテカケタル絹也

一 御チンキ 敷 一 カウコノ宮 薰物ノ壺 入物也
一 ユスルツキ 湯 盃 一 カムケノ宮 ヒンクシナト入物
也 一 カサシノ台 カサシノ作花ノ台也 銀山銀水金銀ノ花樹等
アリ 一 フリワケカミ 玉カツラノヒケ黒ノ子ヲ生タル十一十二
ノ比ノ事也 一 サウヤクシ給フ 雜人ノ役也 一 コモノヨソ
エタ 籠物四十枝 一 蟬哥ノヲキナ 蟬丸事也 一 琴ノムホルネ
調子ノカリタル也 一 宜陽殿 累代御物置納殿也 一 カヘリコ
ヘ 律也 一 ヲヒラカニヲホシタテ給 ヲビレタル由也老ラカニ
トニハアラス 一 ムツカリ給 腹立給フ也 一 御ネクタレノサマ
云々 ネホケタル躰也 一 キリツホ 明石ノ中宮也 一 御トシミ
御年満ト書十々ニタリタル也 一 ラテンノイシ 螺鈿倚子ト書
貝スリタル倚子也 一 イリアヤ 入舞ノ手也

同 十二 三

七大寺 東大 興福 元興 大安 藥師 西大 法澄 一 コシ
サシ 疋絹也 一 シウトク 宿德 異成シタル躰也 一 六エフ
一 左右近衛 左右衛門 左右兵衛 一 カラノ本云々 唐ノ手本
也 一 三条ノ北ノカタ 花散里也 一 ヨシメキノシテ ヨシ
メキ存テ也 一 ムカヘユ 対湯ト書 一 カヘリマウシ 賽ノ字也
双六ノサイモ是也 朝祈暮賽ト云樂府ニ有祈ル事ノ叶タルヲ悦喜
心也 一 ラウシタテマツルトハ 領シ奉ル也 一 カヤスキ タヤ
スキ也 一 ヤス 瑜の右傍に「ユ玉也」左傍に「タマ」タラカ
福地 一 フクチノソノニ種マキテアハンカナラス有為ノ都ニ 一 我御北ノ
方 雲井ノ鴈也 一 鞠ノ日本ニテノ初 天智天皇鎌足入鹿ナト
元興寺ニテ槻ノ木ヲ懸ニテ遊レ畢魚名ノイルカ 鯉 鯰 河狼

本草 一ヌサフクロ 物ヘマカリケル人ノモトニ又サラムスヒフ
クロニ入テ遺ストテムスヒ袋トハスキ袋ナリ 『一』拾アサカラ
ヌ契ムスヘルコ、ロハ、手向ノ神ソ知ヘカリケル 能宣 道祖神
ニタムケヲスル具足等入袋也 後相語ケル人ノアカラサマニコシ
ヘ罷ケルニヌサ袋ナトツカハストテ 我ヲノミ思ヒツルカノコシ
ナラハカヘル山ニハマトハサラン 齋礼 手蔡 享(※)礼 一
次 スキノニ ツキノ也 一イトヲヒラカニ 一ネヲヒレタルト
云 躰 同事也 一ツハイモチ 椿ノ葉ヲ合テ中ニテ飯ノコニ甘
葛ヲ入テ色々ノ薄様ヲキリテユイタル物也 一サルヘキ物 一カ
ヲ物トハ干物也 一サイ相ノ君 柏木也 一ハコトリ 一説カ
ホトリ云々カホトリ定家ハタ、ウツクシキ鳥也 万ニハ杲鳥早鳥
ト書 流離ハイトケナウシテカホヨシ老テハミクルシ如此之間一
名ヲフクロウ也ト云々 一ミカキカ原 アナカチ名所ニアラス
応徳二年三月十六日中殿御會ニ京極大殿 千代マテモサキソハシ
ムル桜花ミカキカ原ニホリウヘシヨリ 如此之間只内裏仙洞以下
ノ御垣ノ事也

廿 若 菜 下 十二三

一スケタチ 中少将達也 一カチユミ 歩□射也 特心^{トシ} 的ノ
名也 李太力歩射ノ法ニ書之 一年フカキ 年タケタル也 一
冠ヲカクル 七十以後也 一松ノシタハ^ワ 下葉 下廻 兩説也但
下葉ヨキ也 一モトメコ 舞ノ名也 一チハヤフルヒラノ松原枝シ
ケミ千代モ八千代モ色ハカハラシ 求子ノ哥也拾遺ニハ平野ノ松
ノ枝シケミト有松原如何若兩説歟云々 一朝観^{キョウケン}ノ行幸也 春
秋ノ行幸トハ春ミルヲ朝ト云秋ミルヲ観^{カン}ト云王ノ親ヲ見給事
也但二親ナキ時ハ春ハ耕^{キョウ}ヲカヘリミテ不足ヲ、キ又フ秋ハ鎭^{キン}

(ママ)ヲカヘリミテ不給ヲタスク 一入道ノミカト 朱雀院御事也
一内侍ノスケ 惟光カ女五節也 一イモキノ御マウケ 精進ノ御
マウケ也延喜式ニハイモキヲ庁食(ママ)トス持斎ノ事也 一大コ
也 一ユシ^{ユシ}アンスル 一ユシハユル也 アンスルハマス也 一
十二月十一日ハ 一神令食トテ内裏ノ神事也 一カラノキ 唐
ノ綾也 一アヲシ^{アヲシ}(ママ) 茶垞色ノキラメタルキヌノ色也 一説襖
子是歟 一アヲニ 一青丹ハ濃青ニ黄ヲサシタル物也表着也云々
花鳥 一筆ノスソ スソトハ手モト也 一トノキスカタ 直衣
姿也 一フツ、カ 太ノ字也聲(※)ノフトキ也 一女三ノ宮ノ姿
ノタトヘ 白雪花繁空抔地緑絲枝弱不勝驚 一タイノ上 紫ノ上
ノ事也 一コクノモノ 曲ノ者也 樂人也 一アカリタル世 上
古ノ事也 一三ノ宮 一三ノ宮 一三ノ宮 一三ノ宮 一三ノ宮
コカノシラヘ 五箇調也 一搔手^{カサチ} 片垂^{カサチ} 水水瓶^{カサチ} 蒼海波^{カサチ} 鴈
鳴調以上五ケノ調 一五六ノハラ 一破楽^{カサチ} 万秋楽ノ五六調ノ半
ヨリ破ヘ返ル間如此云也 一コカノシラヘ 一説胡笳歟 胡国ニ
葦ノ葉ヲ卷テ吹テ楽ヲナス如此之間胡笳歟ト云也白氏六帖ニ有之
但今案也是モイクサ笛也胡国ニ笳播^{カサチ}(カハ)ヲ曰テ為琴曲ト云々 一
ツイキリナル フツキリナル心也 一カケノシクモトハ 便ナ
キ也カケハクモカタシケナクナト云同心也 一マトロム 睡ノ字
也 遊仙屈ニ有 一人ノ御涙ヲサヘノコフ袖云々 下官乃將^{サモツ}ニ衣
袖一与娘子拭^{サト}涙 一タフル、誑ト書ハタフヲカサル、也 一
ハフキ 省ト書 カヘリミルトヨム也 一雨ソホフル スコシフ
ル也 一サヲキ 小青ト書 一モヌケ 蛻ノ字也 蟬蛻 一若宮
女三ノ宮ノ事也 一ヨヘノカハホリ 扇也 一ツマハシキ 彈指

ト書 日本紀 イカハカリ恋ノ山路ノシケ、レハ入ト入ヌル人マ
トフラン 一ソラニメツキタル 天ニ四知有『一』天地人我也
作物所 一ツクモトコロ 木ノ道ノ物也 一東ノヲト、花散里也 一式
部卿宮 紫ノ上父也 一マカヒルシヤナ 摩訶毘盧舍那 種々ノ
説有トイヘトモ朱雀院ノヲハシマス西山ノ寺ノ本尊大日ニテ有ニ
依テ也御誦經アリト云心ニ如此トマリタル也

廿一 かしは木 十二 廿二

一ナケノアハレ △ナイカシロノ哀也▽ 一ツシヤカナラヌ
ヲモくシカラス也 一エンノワカラツノ △役(※)若小角ト書
役(※)優婆塞ノ名也エンノ行者ノ事▽ 一ツヘタマシタ △ツヘ
くシキ也 タトヘハ人ニクサウノ躰也▽ 一御シウノ身ニトマ
リタル 執心ノトマリタル也 一レイハムコムカヘスヘテ云々
ムコハ無期也 一ハンソウ 伴ノ宿也 一御ソウフン 御処分也
一二品ノ宮 女三ノ宮ノ事也 一右大弁ノ君 紅梅ノ右大臣也△
柏木ノ『弟』▽ 一フスマ 被字也帝皇モメス也女御入内ノ初ノ
夜女御ノ母御前ノキセタマツル也四方ニテ綿ヲ入タル也袋ノ如
クウハサシヲスル也 一サウケン 讒言也 一イカノホト 五十
日ノ事也 一ワウケツキテ 王氣付テ也 王相ナル也 一ヲハシ
マサヘ ヲハシマセ也 後撰哥ニモ △脇足ヲ、サヘテマサヘト
アリ 是モヲサヘテヲハシマセ也▽ 一エカチナル 笑カチナル
也 一マナコキ 眼子ト書遊仙屈ニ有 △眼ノ定リタル躰也▽
一シツカニ思テナケクニタトヘタリ云々 樂天詩ニ 五十八翁方
有レ後 靜思(※)堪^{タリ}喜^ヲ 亦堪^{タリ}嗟^ヲ 持^ヲ盃祝願^ヲ 無^レ二他(※)語^ヲ一慎^ヲ
勿^レ頑愚^ヲ似^レ二汝^ヲ耶^ニ 樂天ハ五十八才ニテ如(マ)テ子ヲ生ス仍此子

生遅トナツク 一スミスキテ ヨキ事ノチト過タル也 古哥 トニカ
クニ物ハヲモハスヒタ、クミウツスミナハノタ、一スチニ 一ヲ
ヤノケウヨリモヤツレ給ヘリ云々 孝也 孝經ニ親ノ喪ニハカタチツク
ロハスト云々 甚心也 一イヨス 伊与簾也 一イウシヤウクンカ
ツカニ草ハシメテ青シト云々 時平ノヲト、ノ子八条右大将保忠
薨テ後 紀在昌カ詩ニ天与善人吾不信右將軍墓草初秋此詩ノ心也
本韻ハ秋ト云字ナルヲ当季四月ナル間青ノ字ニトリカヘタル也

廿二 よこ 笛 十二 廿二

一其ワタリノ山に(マ)ホルトコロナト云、拾遺十六ニ延喜ノ
御導師也賀朝法師春野ヲ行時(※)ツホサウソクノ女トモ野辺ニア
リケヲ(マ)ルナニワサスルソト、ヒケレハトコロホルト云ヲキキ
テ 春ノ野ニトコロモトムトイフナルハフタリヌハカリミテタリ
ヤ君 返哥 不知読人 春ノ野ニホルくミレトナカリケリヨニ
トコロセキ人ノタメニハ 一ライシ 蟲(※)子タカツキノ姿ニテ
上ハヌリ桶ノ蓋ヲアラノケニヲキタル様ナル物也菓子ツム物也
内藏寮ニヲカル、物也 一スタキアワテ給フ アツマリアワテ給
フ也集ノ字ヲスタクトヨムアツマル也 一中ノヲ 和琴第二ノ絃
也 一イニシヘカタリ云々 一ハンシキテウヲナカラハカリフキ
サシテ云々 盤渉調ノ調子ヲ半ハカリフキサシタル也 一ツタミ
順^{ツタミ}吐^{ツタミ}ト書ヲサナキ物ノ心チカヘスル事也 一ウチマキチラシテ
散米ノ事也 一フタアイノナヲシハカリキテ △フタアイトハ
アカハナアヲハナ也 只ナヲシハカリキタル也▽ 一ヨルカタラ
スト云々 夢ヲハ夜カタラヌ事也孫真人云夜夢不須説云々

廿二 横笛並 すゝむし 正 廿

目・紫

一メソメトハ 目ユイノ事也 一蜜ヲカクシホ、ロケテ云々
ミツヲカクシトハ甘葛ヲ入ヌト云々ホ、ロケテトハホロ／＼トシ
タル也 一仏ノ御チヤウタイノウヘニ云々 仏ノ御イタ、キノ事
也ト云々但帳台ノ内ニ經机ヲ置タルト云説有是ヨキ也 一行
香
『□』カウノ人々 御八講ノ時公卿達僧ニ抹香ヲスクヒテ引テ廻
ル也 一ワカキミ カホル大将ノ事也 一ハチスノヤト云々 蓮
ノヤトリ也 一七僧ノ法服云々 御八講ノ人数ノ僧七人也 一ア
ヤノヨソヒ云々 装束事也 一サキラ 舌ト云字也 弁舌事也
一ソクトラシ △ソキステタル也 除スツル也△ 一三条ノ宮
女三宮御所也 一ヲト、ノ君 源氏也 一ヘタテ心アル 松虫ハ
人ニヲツル故也 一春宮ノ女御 明石ノ中宮也

廿三 夕 霧 二三

一マメ人 △文選△展季ト書△マコトシキ人也△ 一サカシカ
リ給フ 賢ト思フ也 一ミヤス所 △女二宮ノ事也△落葉ノ宮ノ
母也 一弁ノキミ 紅梅ノ右大臣也 一カリコロモ 狩衣ノ事也
山里ノ△夕霧ノ哥△山カツノ△落葉ノ宮ノ哥△ 一ヤラウ 遂ノ
字 一御ツカサノセウ 右近將監也カウフリエタルトハ叙爵シタ
ル也右近大夫將監ノ事也 一コシン △護身△加持ノ事也 一サ
スカネ カケカネノ事也 一コキミ △故君也△柏木ノ事也 一
コ、ロハセ人 心操ヲ立タル人ノ事也 一アサリ イカナル僧正
ナトニテモアレ真言ノ導師ヲハ阿闍梨ト云也 一ソウルイ 孫類
ト書一族ノ事也 一ハフキステ 省ステ也 一女郎花 一夜ノ宿
一トリノセウヤウノ物ノヤウ タカハ大鷹カマサリタル也仍妻ノ
カチタルタトヘヲ云也 一ヲキナノナニカシマホリケン 竹ト
リノ叟カクヤヒメヲ守タルタトヘ也 一ヲコツリトラン 誘日本

紀 一アサリトラテ 求トラテ也 一アタヘカクシテ アタニカ

クシテ也 一アシト^足キ御馬 駿馬也ヨキ馬也 一ケウシ給シ

孝養シ給シ也 一コノカウイ^{更衣} 御息所ノ事也落葉ノ宮母也 一

入道ノ宮 女三ノ宮也 一ヤウノ物 同様ノ物也 一サラカヘリ

テ 更ニカヘリテ也 一クロキモイマタト云々 服ノ人ハ經宮モ

クロクスル間如此云也 一イトヲニシウ 鬼^鬼ノヤウニ也 一

カシコケレト 便ナケレト也 一スキ／＼ 次々也 一ナコム

和ノ字也 一ウツシ人 現人也 一タカナカヲシキ 誰力名カ惜
キ也 一大トノ、キミ 雲居ノ鴈ノ事也

廿四 御 法 至德四 二十

一ホイアルサマトハ 出家事也 一アサヘタルトハ 浅キ事也

一大将ノキミ 夕霧ノ事也 一レウワウ舞テキウニナルト云々

樂ノ序破急ノキウニナナルニテハナシ此急ハ早クナルト云也 一

宮タチヲミタテマツリテ云々 『一』此宮達ハ明石ノ中宮ノ生タ

ル宮タチ也 一ヤマ、シキトハ 心ヤマシキ也 一乞巧^{乞巧}ノ事天

ノ村々ニ白ク見ユルカ五色ニ成テ水ニウツル時^時 ヲマツリエタ

ルシルシニスル也 一河鼓^{河鼓}（ふりがなカコはカコ） 牽女ノ女也 一

御正日 常ニハ四十九日ヲ云 △コ、テハ一周忌ノ事也△ 一アヲ^後

スリ 山藍ニテスリタル也 一ヤレハラシ^惜 ヤレハトハ破ハ也 ヤ

レハラシヤラネハ人ニミヘヌヘシナク／＼ モナヲカヘスマサレリ

一ヒキサケトハ ヒキハナツ也サケトハ離ノ字ヲモ放字ヲモヨ

ム也 一明ホノニシモサウシニナル、云々 シモハ下ノ字ニアラ
ステニハノシ文字也 一ウナ牛松 文選ニ 馬鬣松 青菰トア

ヲヤカ也是モカタチヨミ也 ウナキマツノ事雖説多只墓ノ上ニ
ウヘタル松也[△]五粒松トテ五本植ト云也[▽]一キサイノ宮 明石
ノ中宮也 一カハサクラ 朱桜ト書又樺桜トモ書 一花ヲシミ給フ
惜給フニアラス花ヲシ見給也ジハテニハ也 一ヲホシタツホトフ
キ(ママ)ヤウ侍ランヤ ニフキハ鈍ノ字也ヲソキ也 一ヨルヘノ
水 諸社ニアルト云説アレトモ只鴨社ニカキルヘキ事也 一仏名
事 宝龜五年ニ始ル又天長七年十二月ニ始云々 一ワカミヤノナ
ヤラハン^{ヨニヤライ} 饑ノ事 節折命婦^{ヨラリノミヤウツ} 内裏(※)女官也

廿六 雲 隠 二十

此卷ハ本ヨリナシ只名ヲ以テ其心ヲアラハス也此名題ニテ六条
院光隠給事知ラル、也此雲隠ノ詞代々集ニアマタアレトモ万葉ニ
人ノ逝去ヲ皆雲隠ト云リ 万二置始東人哥 大君ハ神ニシマセハアマ
雲ノ五百重ノ下ニカクレ給ヌ(「置始東人哥」にふりがなヲキソ
メノマツト) 万二百伝ノイハレノ池ニナク鴨ヲ今日ノミ見テヤ
雲カクレナン 左大臣長屋王賜死時(※)哥大君ノ命カシコミ大アラキノ
トキハニアラネト雲カクレマス(「賜」にふりがなミコト) 天
平七年大伴郎女新羅尼理願死去ヲ悲歎哥 ト、メエヌイノチニシ
アラハ(ママ)敷妙ノ家ヨリ出テ雲カクレニキ 迦旃經 非有非空門
毘勒論 亦有亦空門 天台大師此經論ヲハ見ネトモサトラル、也
此文ノ如ニ卷ヲハ見ネトモ義ヲ以テ知也 一源氏実ニ死給事シラ
ス其故ハ宇治ヤトリ木ノ卷ニ故院ウセ給テ後三三年ハカリノ末ニ
世ヲ背給シ嵯峨院ニモ六条院ニモサシノソク人ノ心ヲサメン方ナ
ク侍ケリト云リ如此ナル間遁世シテ嵯峨ニヲハシマシケル也

廿七 匂兵部(※)卿 二十六

一ヲリキノ御門 ^坊△冷泉院ノ御事也[▽]一ツキノハウ子 △春

宮ノ御シタチノ事也[▽]一ヤウノモノトハ 同様ノ物也 一入道
ノ宮 女三ノ宮也 一今キサキ 明石ノ中宮也 一トニカクニ
史記 左右ト書 一キサイノ宮^{后宮} 秋好中宮也 一イトナク イトマ
ナキ也 一クキ大シ^{聖太子} 羅^{母耶輸多羅}喉羅ノ御事也 一ヒトツヲト、 非第
(ママ)大臣也 一ウツシヲサメ △香ノ匂ヲウツシタル也[▽]一ノ
リ弓ノカヘリアルシ 賭射^{ノリサメ} 大将ノ、リ弓ノ御カヘリニ饗ヲ用意
スル也 コノアルシハ饗ノ事也 一賭射ハ 清和天皇貞觀二年正
月十八日ヨリ始之 内裏ノ弓場殿ニテ射之四府舍人射四府△左右
近衛左右兵衛[▽]左右大将取射手奏^一 一モトメコ 舞ノ名也

廿七並一 紅 梅 二十六

一ツノ比トハ 今上ノ御位ノ比也ハシメノ卷ノ初ニ其比世ニ
アルヲナシ時(※)代ノ事也 一ノチノ大キヲト、 野路ノ太政大
臣也又後太政大臣ト云説有之但行成卿ノ自筆ノ本ニ野路ト被書之
間野路説ヨキ也 一源中納言 カホルノ事也 一トノキスカタ
直衣姿也 一ツマヒキ 爪引也琵琶(※)ハチナラテ爪ニテ引事也
一カワフエ ウソノ事也 一ハシカハシ 端力端也 心アリテ風
ノニホハスソノ、梅ニマツウクヒスノトハスヤアルヘキ 一フト
コロカミ タ、ウカミ也 一モトツカ 本香也 一御フサイ 御
心ニアフ事也 一イツレモヲナシコト コトハ如也

廿七並 竹 河 嘉慶二年 卯十

一源氏ノ御ソウニモ云々 △ソウハ孫也[▽]一ノチノ大臣 野
路大臣也 又後トモ云異説也ヒケ黒ノ大臣ノ事也玉カツラノ夫也
一ワロコタチ △悪後達 女房ノ名也^過 一御ソウフン 処分也
一ムトク 無徳也 一サタスキテ △貞年トハ盛ナル也 仍サカ

リ過也▽ 一モキ木 柎(ママ)ト書也木ノ枝ナキ也 順野宮ノ哥
合ノ判詞 ニチクサニ、ホフ花ノアタリニテハモキ木ノ様ニテ
マシリカタク侍レト、云リ 哥ニシタニホ、エム 一ヲモナケ
レ云々 面ツレナキ也 一センカウノヲシキ △ワロキ香也 沈
ニテ折敷ヲシタル也▽ 一廿ヨ日ト書テ 廿日アマリトヨムナリ
一コトフキ 祝言也寿日本紀 一ナレキ 女ノ名也 一マヘマウ
シ △御前ニテ物執事也▽ 一コノケンソウナル △顯証ト書
アラハナル躰也▽ 一心トキメキニ 心ケシヤウ歟タトヘハキモ
ツキタル躰也 一右ノカトウ 哥頭也△高麗樂ハ右也▽ 一ワタ
花△カサシノ花ヲ綿ニテ作也 男踏哥ノ時(※)也▽ 一ハンズラ
ク 万春樂也 一月ハヘ △クタサレテ 腐也又下也 カノ君モ
サルヘキトコロニ 藏人少將ノ事也 カンノ君『モ』ノ御腹カラ
ノ大納言 紅梅大臣此比大納言也▽ 一マタカタナリナル イマ
タト、ノヲラヌ也 一イカノホトニ △左大臣ノ御女ヲエタレト
竹河左大臣系図(※)ニナキ人也▽ 一ツカマツリ人 奉公人也
一カウカヘサセ給 勘当サセ給也、一アハノ御コトハリヤ云々
アハシキ也 大饗ノ垣下ノ君達也 一カヘリ立ノアルシトハ
饗也『一』帰立ノ饗也

宇治一 はしひめ 廿八 卯 十三

一チフツ 只持スル仏也 一ツカヒサリニシ水鳥ノ云々 番カ
一ハナル、也 一ソクヒシリ ウハソク也 浄名居士云 身在家
心出家是優婆塞也 一カウサク 還迹△愛ニハスクレタル心ニ云
リ花鳥▽ 一コタイ(南点ママ) 古代也 世を(ママ)イトフ心ハ
山ニカヨヘトモ八重立雲ヲ君ヤヘタツル 一シヤウトク 宿徳也

徳ノ至タル也尊宿ノ躰也 一詞タミテ 迂ノ字也 一キスクニテ
健ノ字也コワキ也 一シケキノ中 野也 一柴ノマカキト云々
一ナニカシカ 一スイカイ スイカキ也 一ソヒフシタル人云々
一カンナキ 巫(ふりがなフはフ) 覲(ふりがなケはケ) 一イ
ラ、キタルカホ △雞(※)イラ、ク 鳥ハタノ躰也▽ 一コメカシ
キ古メカシキ事也 一山ノ岩屋云々 一コチ△シキ 事々シキ事
也△コチナケハ 無骨也花鳥▽ 一ヲホトナフヲ △御トノアフ
ラ也▽ 一ロナウ 無論也 一□御ウシロミタチ 一サ、ヤカニ
ヲシマキ合タル △細々許 遊仙屈ニ有 チイサキ躰也▽ 一松
ノヲヒスエ 韃負命婦トハ左右衛門佐力五位ニナリタルヲ云也
四位ヲハ朝臣ト書六位ハ藏人ト書 (一)ラウタケナル 上臈シ
キ躰也

宇治二 椎 本 廿九 卯 十五

一コスク六タムキ云々 タムキ 彈碁ト書 將碁ノ局ノ如ニ石ニ
テ作也馬ヲハ碁ト云馬ノ数黑白十八也石ハシキノ様ニハシキテ勝
負ヲスル也 一川ソヒ 柳ノナヒク水カケ云々 一カンスイラク
酣醉樂也 又カスイラク云々 両説右ノ樂也一アシロ屏風 簾(※)
屏風ト書障子ノホネノ様ニシテ黒染ニシテ網(※)代ヲクミテ糸ニ
テトチ付ル也 一ナマソン王メク云々 只王孫ノ末也 一ヲホキ
シキ云々 王四位ト書△王ト云姓ノ人四位也▽ 一ヘイシトル人
△シヤクトル人也▽ 一ウヘワラハ 殿上人ノ子息也 一カサシ
折花云々 一キヲヒ帰給云々 △我サキニト急(※)ク心也▽ 一
ナケノイラヘ ナイカシロノイラヘ也 一入方ノ月云々 一世ヲ
サリ給ナン ウシロ後也 一カヤスク云々 只ヤスク也 一ヲホ

シキヲトロくシキ也 一心ヲケタス云々 心ヲウシナハス也
一岩ノカケ道云々 一ミタリアシニ云々 △アナタコナタヘアリ
ク躰也 一カツラヒケ云々 ヲモツラヒケ也 一老人云々 弁
尼也 一サハノ芹 峯ノワラヒ云々 一イモキノ御台 △精進ノ
御台 一コチタウハ 多キ也 一髪サハラカニ云々 △カミノ
ウスキ躰也 一ヒスヒタチテ云々 △翡翠 ウツクシキ躰也
鳥ノ名

冊宇治三 あけまき 十 十四

一名香ノ糸 行香ノ机ノ四角ニ結タ『ル』レタル糸也行香トハ
八講ノ結願ニ公卿八人シテ抹香ヲ僧ノ手ニ入ヲ云也 一タ、リ
糸ヲクル台也 一伊セノコ △伊勢ノ御ト云ハ女房ヲカシツク心
也 一スカくト △スミヤカニト云心也 速也 一世コモ
リタルトハ △若ケレハ行末ニ世ノ残タル也 一フル人 弁ノ
尼事也 一アツカハシクトハ モチアツカヒタル心也 一カ。ホ
頑ノ字也カタヲイノ心也 一松ノハヲスキテ △スキテトハノミ
入事也 吸ノ字也 一事ノコイタルトハ 会ノコシタル也 一
タハヤスクトハ タヤスク也 一コチくシ 事々シキ也 一ヒ
ロハカリ 八尺ヲヒロト云也 一チカヲトリス 近付テ後思ヒ捨
タル心也 一ケセウハ 顕証ニト也アラハナル心也 一ウヘワラ
ハ 殿上人ノ童形ヲ云也 一サウヤク 雑役 △細々ニ召仕ル、
也 一壁代 △カヘニ夏ハ生冬ハ練衣ヲ一重ニテ間毎ニカクル也
△一ナニカシノ念仏 △引声 △阿彌陀經ノ事也 一常不
輕ヲナンツカセ侍 △ツカセトハヌカツク心也ヲカム也拜 一
ナヨヒカナル △麗ノ字也美麗ノ心也 一コメキタル フルメ

キタル也 一カウカヘ 勘当ノ事也 一ハフキテ 省ノ字也カヘ
リミル也

冊一 さわらひ 十 十六

一ワラヒツム 中ノ宮ノ哥也 一ハカシナトタテマツリ給ヘリ
△女房モ太刀ヲ持ル、事也 一ミヤヒカ ウツクシキ躰也 竊
△文選 △閑 △白氏文集 一シナテルヤ ニホノミツウミ
湖光 △白氏文集 只水海ノ惣名也 △ニホテル同事也

冊二 やとり木 十 廿四

一中宮 明石ノ中宮也 一女一宮トハ 明石ノ中宮ノ御腹ノ也
一ツシヤカ 重々シキ也 一朱雀院ノ姫宮 女三ノ宮ノ事也 一
アソヒナト 管絃ノ事惣シテ呂律ノ哥ヲウタヒテ管絃ヲスルヲ御
遊ト云也 一二条ノ院ノ對ノ御方 宇治ノ中ノ宮事也 一メ、シ
ク 目タ、シク也タトヘハ目ニ立ト云心也 一キテアリク ツレ
テアリク也 一アシコ アソコ也 一シキノ葉 水洩不通 △花鳥
△一サシクミ ヤカテノ心也 一世ヲソムキ給シサカノ院ト云
々 一命短キソウナレハ 一思タラストハ 只思タル也 一コノ
世カノ世 カノ世ハアノ世也 一ミチノクニ紙 檀 △紙也 一
御心シラヘ 心シリ也 一綾ノレウ 綾ヲルヘキ糸也 一レンシ
タル 調練也 一ヤトモリ云々 御厨子小唐櫃 △一イトカシ
コケレト ヒンナケレト也 一コタニ 木蛸 △蛸 △タニト云字
也 莓ノ類也タニノ物ニクイ付タル様ニハイタルカツラ也 一ヤト
リキト 木ニアラス但宿木ニソヘタル也 寄生 ホヤノ事也 一
尾花ノ物ヨリコトニテ手ヲ指出テマネクカラカシキ云々 △尾花
ヲ手ニタトヘタル也 一ツクモトコロ 作物所ト書大内ノ中ニ

殿ノ中ニ有之 一ナヲシモノ 直物ト書 春秋除目ノ時執筆ノ違
タル事ヲ直物トテ申行也 一タウノハイ 答拜ト書人ノ拜賀ニ来
ル時主人ヨリ立テ拜(※)スルヲ云也 一アルシノ所 尊者也 カ
ホル大将初任ノ饗ニ兵部卿ノ宮ヲ賞(※)シタル也 一コテノセニ
皇子御誕(※)生ニ必ス五ヲウツソノ懸物ノ錢也 一フスク 粉熟
(※)シトキノ様ナル物也一切ノ祝ノ時イッル物也 一御イシ 御
倚子イス也 主上ノ御腰カケラル、物也 一ヤウキ 楊器塗タル
ヲ朱器ト云白木ヲハ楊器ト云也引入也 一御盃サ、ケテヲシトノ
タマヘルコフツカヒト云々 唯称ノ事歟縦ハ上ヨリ仰アル事ヲサ
承ト云心ニヲウト申ス事也 一コセントモ 前駟ノ事也 一若苗
色ノコウチキ 萌木色也 一山里スミ云々 一シノス、キ

卅三 あつまや 十一九

一カミノ子共 常陸守子也 一スキ、次々也 一ハヤリカ
ナルコク 万秋樂也 一アコ 我子也 一ホトリ ハシタヲ也
一コタミ 今度也 一御クチツカラ コチハヒトリコト、云心也
一アウナク 奥ナク也浅キ心也 一宮ノウヘ 中ノ宮也 一
ユクリカ 不意ハヲモハストヨム縦ハ思ヤリモナクト云心也
一御ユスル 髪洗事也ハ沐(ユスル) ユスル 一カマノサウ 降魔ノ相ハヲソロ
シキ躰也 一屏風 ヒトヒラ 一ウツシ馬 前駟馬也ウツシ
トハ鞍(※)ノ名也朱サシタル也ヤマト鞍(※)トハカネニテフクリ
ン懸(※)タル也 一アテ人 上臈ノ事也 一イマ様色 紅ノ事也
ユルシ同事也 一アシロヒヤウフ簾(※) 屏風ト書ヌリ骨ニ車ノ
網代ヲ張テ組テツカヒタル也 一アタコノ聖 空也上人ノ事也
一イガタウメ 伊賀多部女ト書中媒ノ事也奥入ニ有狐ノ名也 一

ヤカノタツミ 家巽作者ニ家持トアレハ也 一ヨモキノマロネ
奚仲蓬ノ転スルヲミテ車ヲ作初ケリハ車ノ□榻ノマロネノ心也
一ツシ ニカイ 一御デイ

卅四 うき舟 十一廿三

一マタフリ 木ノ枝也 一シハ、属是モ数也アマタ、ヒノ
心也 一アシカキ云々 一ツイタチ比ノ夕月夜云々 涅槃経ニ初
月二日月三日月トアレハ朔月有ヘキ歟 一マレノホソ路云々
一褶(フクレ) 一唐シラキノカギリ 一タケフノコウ 一ヨキハンサイノ
帶

卅五 かけろふ 十一廿九

一ヤサシクトハ ハツカシキト云也 一レイヒト ヨノツネ
ノ人也 一涙ツクシテ云々 ハアヤシクレイノサホウ 入棺拾骨
ナト様ノ事也 一メ、シク 目タ、シキ也 一北ノ宮 兵部卿
ノ宮也 一イカナル底ノウツセ云々 ウツセ空瀬 一タヒキ云々
一イタキモノニヲホシテ 一五卷日 中日ノ事也 一ハウソク
アラハナル也ハ物々シカラヌ姿ヲ云花鳥 一アヘハンヘラナン
有侍ランノ心也 一ヲキナコト 老人ノ詞也

卅六 手 習 十一廿九

一ナニカシ僧ツ云々 ハ恵心僧都ノ事也 横川 一宇治ノ院
平等院 一モリカトミユル云々 一コタマ 空谷響 大日経ハ鱗
蜃 木神 樹神 一イカキサマ 猛也 一テウシテ 調伏也
一ヨソメイ云々 ヨソヲヒ也 一ムサンノ法シ 無慚愧也

一ハスノミヤウ 蓮子^{レンシ}盞ノ名也 一ヒハタ色ノハカマ [△]尼
公キル物也 茶染ノ色黒ハミタル也 [△]一ウチツケ心云々 一
世ヲコメク(ママ)ル 末ノ遠キ心也 一尼君マツチノ山トナン
ミ給フルト 誰ヲカモマツチノ山ノ女郎花秋ヲ契^セレル人ソア
ルラシ 一イツクソタチ 下女ノ名也 一アタワサ 徒事ノ心也
一カヘリ申ス 賽悦申也 一基勢^{キセイ}『大』徳トハ 昔ノ囲碁上手也
一狼梁^{キリバネ}(ふりがなハハ) [△]橋 [△]一不意 ヲモハストヨム也
日本紀 一アタラ 可惜事也 [△]日本紀 [△]一命ハ葉ノ薄力如ト云
々 薄葉^{ハクヨウ}ト云命事也陵園妾力事ヲ云ニアリ 一クワンサウナト云
々 萱草色ノ袴也紅ノ黄ハミタル也出家若ハ服者着也 一イツハ
ノアフキ [△]桜ノ三重カサネノ絵扇ノ端ヲ五重カサネテ扇ノ糸ニ
テ是ヲマトウ也如シ准之 [△]一ヲトウト、ハ イモヲトヲモ云也
一^{イチ}ノトコロトハ 左大臣事也 昔ハ一ノ人ト左大臣ヲモ云也

夢のうき橋 卅日

一夢ノワタリ 往^{ワタリ}ヲノ、ワタリトモ云リ又云^{ツキ} 遊仙屈 一タ
マトノニヲキタリケル人ノタトヘ云々 殯^{タマシ}殿^(モカ) 万葉ニ大殯ト云死
タルヲ置所也 一アヲ葉ノ山 小野ニアリ但非名所夏山事也 一
谷ノ軒端 非屋所谷ノハシ也 軒端同事也 一谷ノ戸 同前 谷
ノ口ヲ云也

むかし四辻の儀同三司光源氏の物語講読の席をひらかれて至徳三
年の秋より嘉慶二年の冬にいたるまで五十四帖の秘儀をのへさせ
給しに相助その末座につらなりて一日といへともおこたる事なか
りき後に又おほつかなきふし／＼をたつねたてまつりてしるしお
ける双紙二帖ありなつけてちとりといふ三十余年身をはなたすし

て九十一歳の齢にをよへりまほろしの世のはかなきを見つくして
夢のうき橋かゝるうき身をのこせり一たひゝらきみてハ懐古のな
みたを数行の字にそゝき二たひ思めくらしては妄執の罪を多劫の
報におそる今これを匠作尊閣の(マ)座下に奉りおきて世をかざ
ねたる覆蔭の高恩にむくひたてまつるたとひ老のなみこの世中に
たちわかつともはまちとりのあと後にとゝまらば又なにはのうら
みをか此道にのこさむや干時応永廿六年季春下澣これをしるす

後成恩寺三箇大事之外口伝条々桐壺卷無服傷事夕顔[●]卷侍童指
貫事花宴翁モ可舞出ヌ事葵卷大将假隨身事同卷サル文字忌セ給ヘ
ノ事明石卷マクナキツクリテ事薄雲若君ノ禪[●]ノ事乙女凡垣下
饗事玉鬘水鳥ノクカニマトヘルノ事初子高巾子世離タル事胡蝶ヒ
ノヨソヒノ事藤裏葉一日比夕月夜事

以上十二ヶ条加三ヶ大事十五ヶ条口伝也

此聞書政弘朝臣本にて閑窓の手すさみにうつしをき侍ぬ平井相
助とて連哥の好士名たかき者也彼か所作の抄物京都にても見及
侍き影像をうつしをきたるをも左京兆朝臣宿所にて兼載法橋な
とゝもろともに一覽し侍しそかし河海の説たるによりて千鳥と
いへるにや源氏抄物あまたためにふれともこれ程委き物もまれ也
秘すへし／＼穴賢々々

延徳三年秋九月日

槐下桑門藤齋

平井相助新発俗姓者大内家子也云々

河海抄与花鳥余情相違事

一桐壺卷源氏服有無事 帚木卷指クヒシ女ノ事二条院モ同スチノ
事空蟬卷ハウソクノ事夕顔卷揚明介事若紫卷ツ、ミ文ノ事タカ
ヒメアリテノ事葵卷子ノコノ餅事松風卷サル様アリテ寢殿ハノ
事薄雲卷若君ノタスキヒキユヒ給ヘルノ事乙女卷窓ノ螢ヲムツ
ヒ枝ノ雪ヲノ事玉鬘卷イテコノタ、チノヨソヘハノ事初音卷臨
時客ノ事胡蝶卷アクラノ事イトトアカヌ所ナクノ事螢卷ホタル
ヲウズキ方ニノ事常夏卷イトカシコキヤマトコトハノ事点カチ
ニノ事榎柱卷御手ノサキハカリハタスケキコエンノ事シツホウ
ナル人ノ事梅枝卷紅梅カサネノカラノホソナカノ事クノエカウ
ノ方ノ事藤裏葉卷文籍モ家礼ト云事マカテン空モホトノシウ
ノ事太政大臣封戸事シラツルハミノ事若菜卷上下ノ事フタリヲ
ナシヤウニフリワケカミノ事東宮ノ御方ハ宮ノ御母ヨリモノ事
昔物語ニモ物エサセタルヲノ事人ノソメヲキケルフチノ衣ニモ
ノ事鈴虫卷仏ノヲナシチャウタイノウヘニノ事夕霧卷カクヲキ
ナノナニカシノ事御法卷アサヘタル心ノマ、ニノ事幻卷イカニ
ヲホカルナトノ引哥ノ事竹河卷コノケンソナリケンニノ事橋姫
卷ヨキ人ハ物ノ心エ給ノ事椎本卷カケノシキヤウナレトノ事
御ナカミチノホトノ事総角卷ケニサノミヤウノ物ナトノ事ユル
シ色ノツヤノ事寄生卷サシノソク人ノ心ヲサメンカタナクノ事
エンカノミコタチノ事ヲト、ノ給ヘルノ事東屋卷アハレナル文
ヲカキテノ事ヨモキノマロネノ事浮舟卷ツ、ミ文ノ事手習卷カ
シラノカミアラハフトリヌヘキノ事夢浮橋卷タマ殿ノ事谷ノ軒
端ノ事

此愚本求数多旧手跡之本抽彼是用捨短慮所レ及雖有琢磨之志一
及九牛之一毛并蛙之浅才寧及哉只可招嘲弄讒雖有勘知事又是
不足言未及尋問以前依不慮事此本披露於華夷遐邇門々戸々書

写預誹謗雖後悔無詮微前事每卷奥所注付辭案切出為別紙之間
歌等多切失畢旁雖堪恥辱之外無他向後可停止他見

非人桑門明靜

以上自筆青表紙夢浮橋卷奥書臨摸之

原中最(※)秘抄云

ヤウメイノスケノ事

伊行朝臣尺

源氏アラハシニ云諸国介也源ノ人ノナル官也云々

定家卿尺

奥入云此事源氏第一難儀也云々非可勘知事

抑往古除目揚名介アルヘシト見ヘタリ其家ニ升ルヘキ道理ナシ云
々允亮政事録云揚名介逢ニ国司一下馬云々諸国介也揚名トハ無所
望仁之時ウツホニス作名举也吉野春風三輪車持ナト号其例在中古
之除目之勘文応保二年潤二月太相国仰云揚名介事御堂殿御申文兩
度有此事案之諸国正介歟ハ吉所案也ノ宇治殿仰云揚名関白有何詮
云々近来執政為御虛名之由御述懷云々昔東三条院ハ法興院殿御女
円融院后ノ被レ舉ニ申揚名介一之時御堂殿被申任目播介畢旁以有
子細者也云々通具卿申文望ニ近辺目一云々入道殿御執筆之時任近
国司云々古来未有此申文云々或説云故信西云揚名介者正權之外介
也不レ預ニ公廨一説云於諸国吏務一興行介於称揚名ニ云々
一説云近衛中将也陽明門近衛也又將也故被称陽明將歟云々
一説云於異朝称ニ雍州一者為帝都一然間和国亦平安城已後以山城
国号雍州故彼国介有揚名之号歟
一説云兼文宿禰為神祇大副兼ニ山城介一之時或人送賀礼返報云揚
名国司雖レ隔二分憂一兼字朝弊非無氣味一

一説云常陸介云々大守者鹿嶋明神令^{トテ}主給歟或^ハ親王諸任王之稱
揚名介一者依為守代也

鶴大臣殿
九条前内府仰云此事不限源氏物語一事撰家之秘事也予自故殿并
師家公

松殿一相^ニ伝秘説一而為家卿於彼物語一尋道七箇不審之時至^ハ二揚名
一事一者猶以不許^ニ秘説一是有口伝也後深草院尋^ニ仰鷹司大閣一
之時為^ニ山城介一之由被申之云々而円明寺殿仰云此事絶不限山城
之介歟云々

私揚名介事京^ノ極中納言并宮内卿伊行朝臣其外古來家々異説如
斯然而所見未^レ詳於当家深奥之説一者依^レ為殊秘事一所載別紙

也行阿追勘二勤条々一或有議説云諸国々司在京之時於陽明門以衛
門之鼓奏二国之事一故号陽明介云々

堀河左府御説云諸国介^ハ賜^ハ二截符一不^レ赴^レ任号揚名介留守指置
之云々道証房^ハ明法道^ノ勘文政事要略六十七^ハ記彈雜事也^ノ
云問人之僕從不^レ可^レ着^ハ履但諸国揚名掾目等為車馬之目依^レ烈二
僕從一猶可制哉為勞掾目可制哉 答尤是可制有二其証一儀制令云
々允亮答云々

良基公
二条大閣御教書云彼秘説事一紙遣之以之可被加了見也不定其官事

也除目執筆十箇条秘説問也仍当家之外無相伝人愚身月輪関白并松
殿関白両家説相伝之且法成寺入道^ハ道長公^ノ以来十四五代除日
相続勤二仕執筆一之条於今者愚翁許也委細秘事口伝期上洛一者也
又任官事先一男所望事宜下遣之兩人今度便之時重可被申之状如件

貞治四
六月卅日

御判

御端書云宇治関白述懷詞御堂関白申状以下可加了見事也更此一紙
不可被見他人也又行阿云二条大閣撰家御相伝之説直被授下一訖然

間曾祖光行者仰後京極殿之御説一愚質行阿者奉伝受彼秘訓畢仍云
拾云恰深納二千函底一所不書載此抄也

揚名介事他抄物云^ハ外記秘抄^ノ

一説山城介ヲ云ト云々

一説諸国介也云々

一説女人可任官歟云々

秘説非口伝者難知事也

源氏物語表紙^ハ定家流^ノ河内本分別条々

きりつほ

河内本
絵にかきたる揚貴妃のかたちはいみじきあしといへとも筆かきり
ありければいとにほひすくなし太液の芙蓉未央の柳もけにかよひ
たりしかたち色あひからめいたりけむよそひはうるはしうけうら
にこそありけめなつかしうらうたけなりしありさまは女郎花のか
せになひきたるよりもなよひなてしこの露にぬれたるよりしもら
うたくなつかしかりしかたちけはひをおほし出るに花鳥の色にも
ねにもよそふへきかたそなき

青表紙にらうたけなりしをおほし出るに花鳥の色にも音に
もよそふへきかたそなきとありをみなへしなてしこの詞な
し

同巻のすゑに

内にはもとのしけいさを御さうしにては、みやす所の御かたの人
／＼まかてちらすさふらはせ給ふさとの殿はもくすりたくみつか
さなとにせむしくたりて

青表紙にはさとの殿は修理職たくみつかさとあり

はゝき木

河内本
しのふのみたれやとうたかひきこゆることにありしかとさしもあらざりけり

青表紙にはきこゆることもありしかとさしもあためきめなれたるうちつけのとありあらざりけりの詞なし

うつせみ

河内本
あかつきちかき月くまなくさし出てふと人かけのみえければ又おはするはたそとふせうのおもとなり

青表紙には民部のおもとなりとあり

わかむらさき

河内本
うちゑみつゝみたてまつるいとたうとき大とこのさま也さるへきふむつくりてすかせたてまつり

青表紙にはさるへきものつくりてとあり

すゑつむ花

河内本
内にいかにの給せむとすらんといとまめやかにのたまへはいとくをしておもほして御硯のかめの水にみちのくかみをぬらしてのこひ給へは

青表紙にはかめの水みちのくかみなとの詞なし

紅葉賀

河内本
こゑはいとおかしくてうたふそすこし心つきなきや文君なといひけんむかしの人もかくやおかしかりけむ

青表紙にはかくしらにありけんむかしの人もとあり文君の詞なし

匂兵部卿

くいたいしのわが身にとひけるさとりをもえてしかなと

青表紙にはせんけうたいしのとありてくいたいしの詞なし
本奥書云

右両本之差別如此候敷詞之前後之相違其外少之違不可勝計候先各別之処計応芳命注進之候以是則可有御覚悟候殊愚本不隨身候之間不可有正躰候

兼載

此源氏物語 〽青表紙河内本〽 相違之事書外題之次以政弘朝臣本写之而已

龍翔院奥書

判

一嵯峨院の御時此物語御談儀ありけるに以扇招月の事諸道に尋られけるにいつれも無所見後日基長卿証書に扇月をまなふと云事有五音相通を以てまなふと可心得とそ

(古田東朔・松田修)